

N

EWS
LETTER芝浦工業大学
教育イノベーション推進センター
ニュースレター

VOL. 6

発行/芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター

Contents

2

教育イノベーション推進センター
部門紹介2016年度
教育イノベーション推進センター
各部門長、センター員一覧表

3

教育イノベーション推進センター
部門紹介

ご挨拶

教育・学習支援部門 部門長 山田 純
(工学部 機械工学科)2016年度
FD・SD講演会 報告

4

2016年度第1回
TOEIC成績優秀者表彰式レポート
教育イノベーション推進センター
吉久保 肇子

5

2015年度
優秀教育教員顕彰優秀教育賞選考委員会
委員長 清野 肇

6-7

「授業における創意工夫」実践事例シリーズ
第4回
グローバルPBL活動工学部電気工学科
教授 安藤 吉伸

8

2016年度
FD・SDカレンダー大宮キャンパス グローバル・ラーニング・コモンズ
—アクティブラーニングの「場」をつくる—

University Global Administrator (UGA) 織田 佐由子

2016年4月、国際交流やダイバーシティ拡大をコンセプトとしたグローバル・ラーニング・コモンズ (GLC) が大宮キャンパスに開設されました。

GLCでは大学スタッフと学生スタッフが常駐し、留学情報の提供や個別相談、国際学生の支援を行うとともに、学生団体や図書館等との連携により各種交流イベントを開催しています。また、テレビ会議による海外協定校とのミーティングの実施や学外講師を招いてトークセッションを開催するなど、学外との連携促進の拠点にもなっています。

GLCの特徴のひとつとして、芝浦工業大学が展開するアクティブラーニングとの連動があげられます。グループワークの活動場所となるだけでなく、GLCを題材とした取り組みが進んでおり、システム理工学部の初年次PBL(課題解決型学習)科目「創る」では、GLCの利用促進をテーマにした班が大宮祭で交流ゲームを企画し、さらに愛称募集や学バスのポスター掲示を通じた広報活動を行っています。同班を指導する吉村建二郎教授からは「GLCに一度でも来ればその魅力は分かるので、GLCの名前を知り、身近に感じてもらえたらと思っています」とのコメントが寄せられています。また大学院理工学研究科のPBL科目でも、画像認証技術によるGLC利用状況のモニタリングが検討されており、学生達がそれぞれの専門分野を活かしてアイデアを出し合っています。

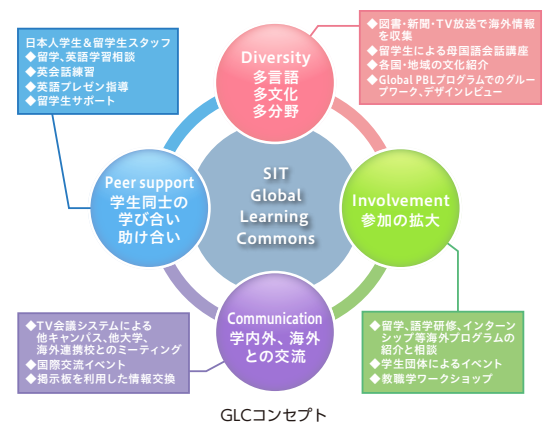
もうひとつの特徴として、GLCでは学生スタッフが主体となって運営にあたっています。25名のスタッフのうち過半数は国際学生で、英語を共通語として日常業務やミーティングを行っています。学生スタッフからはGLCを活用したさまざまな企画が出され、ソーシャルネットワークサービスを用いた情報発信、スポーツ交流イベントの開催や留学渡航準備ガイドブックの作成、海外プログラム参加者を対象としたタイ語・マレー語・ベトナム語の勉強会が行われています。学生スタッフ

のアディリンさん(マレーシア出身)は「いろいろな人と接して学ぶ機会があり、今までにない経験ができています」と語り、学生スタッフとしての活動そのものがアクティブラーニングであるとも言えます。

GLCでは今後もバディ・グループの導入や国際PBLの実施を予定しており、教職学協働で新たな学びの場を提供していきたいと考えています。



▲授業風景



2016年度

教育イノベーション推進センター 部門紹介

全学的な教育改革・改善活動を推進する教育イノベーション推進センターにおける2016年度のセンター員を紹介します。



▲教育イノベーション推進センター組織図

教育イノベーション 推進センター

センター長 米田 隆志(システム理工学部生命科学科)

IR部門

部門長 井上 雅裕(システム理工学部電子情報システム学科)

センター員

小野 直樹(工学部機械機能工学科)

石渡 哲哉(システム理工学部数理科学科)

長谷川 忠大(大学院研究科理工学研究科)

平田 貞代(工学マネジメント研究科工学マネジメント専攻)

坂井 直道(教育イノベーション推進センター)

相原 総一郎(教育イノベーション推進センター)

キャリア教育部門

部門長 長谷川 浩志(システム理工学部機械制御システム学科)

センター員

中村 朝夫(キャリアサポートセンター長)

岡田 佳子(工学部共通学群・教職科目)

志村 秀明(工学部建築学科)

坂井 直道(教育イノベーション推進センター)

FD・SD推進部門

部門長 榊原 暢久(工学部共通学群・数学科目)

センター員

田中 秀穂(工学マネジメント研究科工学マネジメント専攻)

ホートン 広瀬 恵美子(工学部共通学群・英語科目)

奥田 宏志(システム理工学部生命科学科)

間野 一則(大学院研究科理工学研究科)

谷田川 ルミ(工学部共通学群・教職科目)

坂井 直道(教育イノベーション推進センター)

教育・学習支援部門

部門長 山田 純(工学部機械工学科)

ご挨拶 p.3

センター員

栗島 英明(工学部共通科目・人文社会科目)

吉村 建二郎(システム理工学部機械制御システム学科)

坂井 直道(教育イノベーション推進センター)

グローバル推進部門

部門長 新井 民夫(教育イノベーション推進センター)

センター員

ミリアラ ムラリダ(大学院研究科)

橋 雅彦(教育イノベーション推進センター)

吉久保 肇子(教育イノベーション推進センター)

山崎 敦子(工学部共通学群・英語科目)

吉村 建二郎(システム理工学部機械制御システム学科)

櫻木 新(デザイン工学部デザイン工学科)

教育・学習支援部門 新部門長

ご挨拶



部門長 山田 純
(工学部機械工学科)

2016年度より教育・学習支援部門の部門長を務めることになりました工学部長の山田です。工学部では、来年度よりこれまで行ってきた基底科目制度を見直し、新たにサポート科目を設置することになりました。このサポート科目は、1年次の初めに学ぶ共通数理科目・英語科目の修得を支援することを目的としています。プレイスメントテストで、あるレベルに到達しなかった学生に対して、補講的な役割を果たす科目です。この取り組みは、これまで工学部の学習サポート室で行っていた学習支援を、それを必要とする学生に、広く提供しようとするものです。したがって、学習サポート室では、それでもなお修学が困難な学生に対して個別に指導を行うなど、その役割を見直して行くことになります。システム理工学部で開設している学習相談コーナー“イ・コ・バ”や、デザイン工学部の学習サポート室と連携しながら、全学におけるよりよい教育・学習支援体制の構築を目指します。

「2016年度FD・SD講演会」 開催

FD・SD推進部門

部門長 榎原 暢久

教育イノベーション推進センターFD・SD推進部門の企画で毎年実施しているFD・SD講演会が、本学教職員236名参加のもと、2016年4月4日(月)大宮校舎において開催されました。今年度は村上学長と井上学長補佐に、「スーパーグローバル大学創成支援の取り組み」と「大学教育再生加速プログラムの取り組み」という演題で基調講演をお願いしました。これら事業も3年目を迎え、その推進役である学長・学長補佐の思いをあらためて共有する機会をもてたことは、中間評価へ向けて事業をさら



▲村上学長による「スーパーグローバル大学創成支援の取り組み」の講演

に推進する良いきっかけとなったのではないのでしょうか。基調講演に続き、教育賞受賞者の表彰が行われ、その後、アクティブラーニングをはじめとする受賞者の取り組みなどが紹介されて、約3時間の講演会は終了しました。



▲大勢の参加者が熱心に傾聴された



▲井上学長補佐による「大学教育再生加速プログラムの取り組み」の講演

2016 年度 第1回

TOEIC 成績優秀者表彰式レポート

教育イノベーション推進センター 吉久保 肇子

芝浦工業大学は、学内のグローバル化を推進するため学生の卒業時外国語力スタンダードとしてCEFR B1 (TOEIC550) を目標としています。学生の関心とやる気を喚起し、学生のキャリア形成に繋げてもらうため、2015年度からTOEIC成績優秀者表彰を実施しています。表彰区分は、学長賞(900点以上)、副学長賞(800-895点)、優秀賞(700-795点)、達成証書(550-695点)の4種類です。

2016年度第1回TOEIC成績優秀者表彰式は、5月22日(日)大宮祭で開催されました。受賞者数合計は390名で、内訳は学長賞6名、副学長賞31名、優秀賞61名、達成証書292名です。今回は表彰式を1部と2部に分けて行いました。第1部表彰式では、各賞の代表学生4名が、大宮祭屋外ステージに登壇し、村上雅人学長と、教育イノベーション推進センターの新井民夫教授から表彰状が授与されました。

表彰後は代表受賞者のミニスピーチが行われました。達成証書代表の平川さんの「英語は知識を深めるためのツールで、英語力を身につけることでチャンスが広がります」という英語でのスピーチを皮切りに、優秀賞代表の井上晃太郎さんの「留学生とのランチミーティング等を通じて、英語に触れる機会を増やしながら楽しく学んできました。語彙力が今後の課題です」というスピーチ、副学長賞代表の山田明美さんの「イギリス留学を予定しており、次回は学長賞を目指したい」という頼もしいスピーチが続き、会場は大いに盛り上がりを見せました。学長賞代表のムハンマド アフィフ ビン シャムスルハディさんによる「ステージ上で表彰されるのは、日本に来て初めての体験です。とても嬉しいです。会場の皆さんも、芝浦工業大学でチャンスを掴んで下さい!」という英語のスピーチは、受賞の喜びだけでなく、芝浦工大生全員を応援するメッセージが込められており、会場全体がとても暖かい雰囲気になりました。



▲代表学生によるスピーチ。右より、達成証書代表の平川貴大さん(機械工学専攻2年)、優秀賞代表の井上晃太郎さん(デザイン工学科4年)、副学長賞代表の山田明美さん(機械機能工学科4年)、学長賞代表のムハンマド アフィフ ビン シャムスルハディさん(電子情報システム学科3年)

第2部は、この4月にオープンしたグローバル・ラーニング・コモンズで行い、村上学長を囲んで受賞者全員の記念撮影後、出席した受賞者全員を表彰しました。第1部、第2部と合わせて65名の受賞者が出席しました。

表彰式に出席した受賞者からは「村上学長の言葉が胸に響いた」「次回は学長賞を狙いたい」「英語学習のモチベーションが上がった」「出席者全員が表彰されて良かった」といった声が多く聞かれました。今後は、表彰式だけでなく、受賞者と未受賞者のスコアアップに繋がるような集い、例えば、学生主体のTOEIC座談会等も企画したいと思います。



▲表彰式第2部を行ったグローバル・ラーニング・コモンズで受賞者全員と記念撮影

2015年にスタートしたTOEIC成績優秀者表彰式ですが、のべ1220名が表彰されるという素晴らしい結果に繋がっています。これは、学生たちの日頃の努力の結果であると同時に、本学のこれまでの英語教育の成果であると思います。2015年度は、全学部の3年生を対象とした全4回のTOEICスコアアップレッスンを開催し、学科を挙げてTOEIC受験を推奨したことも、結果を後押ししました。また、表彰者にはスコアアップの秘訣や英語学習方法等ヒアリングを行い、ポスターや卓上広告に掲載し、各キャンパスの図書館や食堂、掲示板等で紹介しました。

その結果、2014年度末の全学部の3年生の受験率は50%弱でしたが、2015年度末の受験率は約70%に上昇しました。学内のTOEICに対する意識は着実に高まりつつあります。受賞した芝浦工大生の更なる飛躍を期待すると共に、今後により多くの学生さんに表彰の喜びを味わってほしいと思います。



◀ 2015年度後期実施の生命科学科生命医工学科のTOEICスコアアップレッスン風景

表彰式の模様や代表受賞者のコメントは本学のHPにも掲載されています。

<http://www.shibaura-it.ac.jp/news/2016/40160058.html>

2015年度優秀教育教員顕彰

優秀教育賞選考委員会
委員長 清野 肇



4月4日大宮キャンパス齋藤記念館にて2015年度優秀教育教員の顕彰と講演が行われました。対象となったのは表に示した7件です。SGUやAP事業をきっかけに、新しい試みが多くなされていることを反映しているためか、「アクティブラーニング」、「グローバル」、「PBL」といった言葉を含む標題が多かったです。

参加者のアンケートを読ませていただいたところでは、「工夫されたところが示されて、参考になった」との感想が多く、どの講演も好評でした。授業の開発に苦労した点、教員の学生や授業に対する考え方について多くの方が興味を持たれているようでした。選考委員会に対して「評価のポイントの説明がほしい」との意見もあり、これについては今後の選考委員会の運営において参考にしたいと思います。

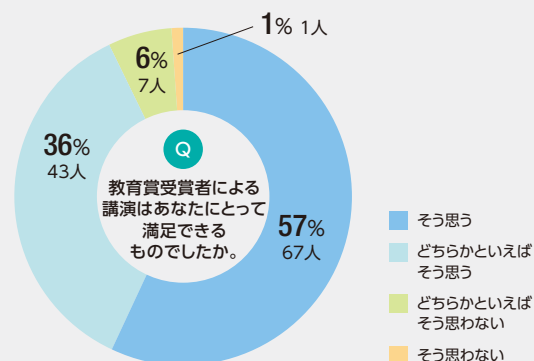
私自身は神澤先生、森野先生による手旗信号を取り入れた初年次教育に関する講演を興味深く聞かせて頂きました。手旗信号を中心に、通信の原理の体験、自発的に学び、学生同士の関係作りなど、多様な目標を一度に達成していることに感心させられました。また教育イノベーション推進センターの安藤香織先生による講演が英語で行われたことは、国際化への取り組みが不可欠であることを端的に表していると感じました。



▲数多くの工夫が紹介された

所属・氏名	標 題
■ パワーエレクトロニクス系gPBL 電気工学科 ■ ロボット系gPBL 電気工学科 電子工学科 情報工学科 デザイン工学部・デザイン工学科	赤津 観、下村 昭二、藤田 吾郎
	安藤 吉伸、吉見 卓、長谷川 忠大、水川 真、佐々木 昌浩、福田 浩章、佐々木 毅
情報工学科	福田 浩章
工学部共通学群人文社会科目	中村 広幸、任 龍在、河野 純大、吉本 浩二、岡本 明
通信工学科	神澤 雄智、森野 博章
生命科学科	赤木 亮太、山本 紳一郎
環境システム学科	澤田 英行
デザイン工学科 教育イノベーション推進センター	櫻木 新、安藤 香織
	海外大学（ベトナムHUSTおよび台湾NTUST）との連携によるグローバルPBL活動の実施
	実践力育成とグローバル化を促進するソフトウェア開発PBLの実施
	グローバルな課題に対応し、障害当事者を交えたPBLやアクティブラーニングを組み込んだユニークな授業の実施
	新入生オリエンテーションにおける「手旗信号による情報伝達演習の開発」
	システム理工学部の体育実技科目（ゴルフ）を通じた社会人基礎力習得への試み
	「居住環境デザイン」におけるアクティブ・ラーニングの取り組み
	正課外の学習支援を中心とするデザイン工学部英語科目の運営

参加者の感想・意見



コメント

- それぞれの先生方の工夫が感じられた
- 授業の組み立てにあたって何をどのように考え展開されているか具体的に理解できること
- 大変参考となる授業の進め方が聞けること、件数を減らすかもっと簡単な発表でも良いと思います
- 授業の組み立て方がとても参考になった。また、体育実技に関する授業の話は初めてで興味深かった
- 講義、演習の実践事例を聞ける良い機会であった。参考にして自分の科目の中でも応用したい
- 新しい授業形態にチャレンジするという事は、素晴らしいと思うが、従来の講義がダメなのかはもう一度考える必要があると思う

「授業における創意工夫」実践事例シリーズ

第4回

グローバルPBL活動

- 赤津 観(パワーエレクトロニクス系gPBL代表)、下村 昭二、藤田 吾郎
- 安藤 吉伸(ロボット系gPBL代表、文責)、吉見 卓、長谷川 忠大、水川 真、佐々木 昌浩、福田 浩章、佐々木 毅

工学部電気工学科 教授 安藤 吉伸



2016年4月の2016年度芝浦工業大学FD・SD講演会におきまして、「海外大学(ベトナムHUSTおよび台湾NTUST)との連携によるグローバルPBL活動の実施」と題したグローバルPBL活動が教育賞として表彰されました。本グローバルPBL活動に教育賞をいただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

交流を深めながら課題に取り組む

このグローバルPBL活動は、パワーエレクトロニクス(以下、パワエレ)系gPBLとロボット系gPBLの2つの活動に分かれています。パワエレ系gPBLは、2014年度から赤津観先生(代表)、下村昭二先生、藤田吾郎先生が御担当をされていて、海外大学において本学の学生がパワーエレクトロニクスの課題に取り組む教育プログラムとなっています。パワエレ系gPBLでは、参加学生がDC-DCコンバータの製作や実験を通して、パワエレ系や電力変換の基礎を学ぶことができます。パワエレ系gPBLでは、ハノイと台湾の2箇所開催と、活動が多国間で展開され、活発化されています。

ロボット系gPBLは、2013年度(2014年3月)から実施され、安藤吉伸(代表)を含めて吉見卓先生、長谷川忠大先生、水川真先生、佐々木昌浩先生、福田浩章先生、佐々木毅先生で担当をされていて、ベトナムのハノイ理工科大学(HUST)において本学の学生が

ロボット系の課題に取り組む教育プログラムとなっています。ロボット系gPBLでは、参加学生がライントレースロボットの製作・実験や機能拡張を通して、ロボットやコンピュータシステムの基礎を学ぶことができます。ロボット系gPBLでは、2014年3月に4名、2015年3月に14名、2016年3月に26名と、参加者が増え、活動も活発化しております。

ロボット系gPBLの活動について

今回は、安藤担当のロボット系gPBLに関しまして、活動内容を簡単にご紹介させていただきます。最新の実施期間は、2016年2月27日(土)から3月9日(水)となっています。スケジュールでは、実働8日間となるようにgPBLのスケジュールを組み、現地ラボワークをメインに入れ、ロボットの機能拡張に取り組めます。最終日には、成果披露の場として、最終プレゼンテーションを実施することになっています。スケジュールの中で長谷川先生による講演会を実施し、企業見学会(DENSO工場見学とemotiv見学)も入れています。



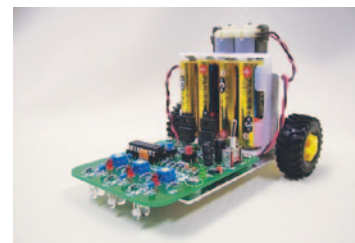
▲長谷川教授による講演会



▲DENSO工場見学

HUSTのラボワークでは、本学の学生とHUST学生とで交流を深めながら、ロボットの課題に取り組めます。芝浦工業大学の工学部電気工学科製作実験1で開発・実施してきた工学導入プログラム(ライントレースロボット教材)および、生涯学習センター「ロボットセミナー・ライントレースロボットLTR-04」教材をベースに、ロボットの機能拡張に関する課題を設定しています。

本学の学生とHUSTの学生が交流を図れるように、1グループ5名程度の日本人・ベトナム人の国籍混成チームを9班作成しました。各グループでは、さらに、本学の学科もなるべく混成されるように班を形成して、他学科との交流も図れるようにしています。前半課題は個人課題とし、後半課題ではグループ毎に課題に取り組むことにします。



▲ロボットセミナーモデルLTR-04

Mission1 (個人課題)

今回のgPBLの課題については、前半課題Mission1(個人課題)と後半課題Mission2(グループ課題)に分けて、取り組むことにしました。まずは、前半課題Mission1(個人課題)において、白地に黒線のコース(ノーマルコース)と黒地に白線のコース(反転コース)が切り替わるようなコースにおいて、ロボットのラインレースを実現する課題に各人で取り組んでももらいました。各自で練習走行を繰り返しながら、走行アルゴリズムを工夫し、ラインレースプログラムを作成しました。期間の中頃に走行記録会を行うことで、各人の前半課題Mission1の成果を披露していました。走行記録会では、3回の走行記録を取り、3回の中で最も良い記録を採用することとしました。



▲プログラミングの様子



▲ラインレースロボットの走行の様子

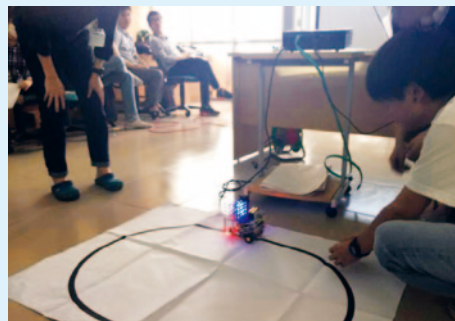
Mission2 (グループ課題)

後半課題Mission2(グループ課題)では、グループごとにロボットの機能拡張について議論し、各グループでのデモンストレーション内容を自由に決めていました。各グループで活発なディスカッションをして、場合によっては必要な電子パーツを購入して、ハードウェアを改良する中で、各グループともデモンストレーションを完成させてきました。最終日に各グループの最終プレゼンテーションを実施する機会を設け、各グループのデモンストレーション内容を披露していました。



▲グループディスカッション

▲電子部品購入の様子



最終プレゼンテーションの様子

HUSTにおけるgPBLでは、HUST講師であるTrung博士(本学の水川研究室OB)が、準備と運営に積極的に協力してくれまして、スムーズな運営が可能となりました。今回の芝浦工業大学-ハノイ理工科大学のgPBLは、双方の大学において実施した授業に学生交流を加えて、国際共同作業として成立させ、教材と教育プログラムにさらなる改善を施すことができましたことは、参加学生の教育だけではなく、教育プログラム自体にとっても大きな収穫となりました。本活動にご支援をいただいた関係の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

Certificate授与式と
ティー・パーティー (親睦会)

2016年度 FD・SDカレンダー

月	日	曜	イベント 学内・学外	内容	主催	対象	参加費	時間	場所	申し込み
2016 年 4	4/1	金	新任教員研修	学術情報センターからの説明 (学内LAN、教卓システム、事務端末)	本学	学内専任教員	無料	9:30～ 11:00	本学 芝浦キャンパス PC実習室	不要
	4/2	土	新任教員研修	図書館と授業収録システムの説明	本学	学内専任教員	無料	9:30～ 11:00	本学 豊洲キャンパス 6階PC実習室6	不要
	4/4	月	FD・SD講演会	基調講演 教育賞の表彰と講演会	本学	学内専任教職員 および非常勤講師	無料	14:40～ 19:00	本学 大宮キャンパス 斎藤記念館	不要
	4/17	日	新任教職員研修会	教育機関としての本学の状況の理解、 法方および各種ガイドライン等の理解、 教育活動をする上での基礎理解	本学	学内2016年度採用 新任教職員、2015年度 中途採用教職員	無料	9:30～ 16:05	本学 豊洲キャンパス	不要
5										
6	6/18	土	FD推進ワークショップ	教学マネジメントとFD・SD ～協働を軸とするFDの新たな潮流～	日本私立 大学連盟	加盟大学の専任教職員 100名	無料	13:00～ 19:00	東京:TKP市ヶ谷 カンファレンス センター	日本私立 大学連盟 締切:5月13日
7										
8	8/2～ 3	火 水	FD推進ワークショップ [A日程]	大学教員の職能開発とFD (A日程、B日程とも同じプログラム)	日本私立 大学連盟	大学の専任教員 となって4年未満の方 50名	教育 イノベーション 推進センター 事務課	1泊2日	静岡: グランドホテル 浜松	日本私立 大学連盟 締切:6月13日
	8/4～ 5	木 金	FD推進ワークショップ [B日程]							
	8/24～ 26	水 木 金	SPODフォーラム	学びの成果をどう可視化するか?	四国地区大学 教職員能力開発 ネットワーク	高等教育機関の教職員、 大学院生、学生	教育イノベーション 推進センター 事務課	2泊3日	愛媛: 愛媛大学城北 キャンパス	四国地区大学 教職員能力開発 ネットワーク
	8/30～ 31	火 水	ティーチング・ ポートフォリオ作成WS	TPの基本的な構造や特徴について学 ぶ。メンターとの会話を経ながら、自身 のTP素案を作成する。	本学	TPに興味のある方 先着6名	無料	1泊2日	多摩永山情報 教育センター	教育イノベーション 推進センター 事務課
9	9/1	木	入職3年目以内教員 フォローアップ研修会	授業外学習を促すシラバスの書き方、授 業デザイン授業内手法等に関する研修	本学	入職3年目以内の教員	無料	6時間	本学 豊洲キャンパス	教育イノベーション 推進センター 事務課
	9/5～ 7	月 火 水	新任教員研修セミナー	到達目標:自分が担当する授業を「生徒・ 学生が主体性を持って多様な人々と協力し て問題を発見し解を見出していくアクティ ブ・ラーニング」へと転換するために必要 なことを説明できるようにすること。	大学 セミナー ハウス	国・公・私立大学等で 授業を担当する新任教員 (年齢不問)	教育 イノベーション 推進センター 事務課	2泊3日	東京・八王子: 大学セミナー ハウス	公益財団法人 大学セミナー ハウス 締切:8月1日
	9/8	木	学生主体の 授業運営手法WS	理工系学部では従来から実習・実験や 卒業研究などの中でアクティブ・ラーニ ングが広く実践されてきた。このWSで は「一般的アクティブ・ラーニング」を効 果的に実践するための、学生主体の授 業運営方法を身につける。 講師:ダイナミックヒューマンキャピタル中村文子氏	本学	学生の学びの促進に 興味のある方 先着30名	無料	9:30～ 17:00	本学 豊洲キャンパス	教育 イノベーション 推進センター 事務課
	9月上旬 予定		私立大学フォーラム (第1回)		日本私立 大学連盟		無料		東京(予定)	日本私立 大学連盟
	10月上旬 予定		私立大学フォーラム (第2回)		日本私立 大学連盟				宮城(予定)	日本私立 大学連盟
10	10月上旬 予定		私立大学フォーラム (第3回)		日本私立 大学連盟		無料		大阪(予定)	日本私立 大学連盟
11	11月上旬 予定		私立大学フォーラム (第4回)		日本私立 大学連盟				福岡(予定)	日本私立 大学連盟
12	12月上～ 中旬予定									
2017 年 1										
2 月 3			FDフォーラム	基調講演および分科会における事例報 告や意見交換を通じて、FDに関する情 報交流の場を提供する。	大学 コンソーシアム 京都		教育イノベーション 推進センター 事務課	1泊2日	京都	大学 コンソーシアム 京都
			ティーチング・ ポートフォリオ完成WS	自身のTPを完成(更新)する。またメン ターの役割について理解を深め、メンタ リングについて学ぶ。	本学	過去にTP作成WSに 参加した方	無料	1日	本学 芝浦キャンパス	教育イノベーション 推進センター 事務課
			学生主体の 授業運営手法WS	理工系学部では従来から実習・実験や 卒業研究などの中でアクティブ・ラーニ ングが広く実践されてきた。このWSで は「一般的アクティブ・ラーニング」を効 果的に実践するための、学生主体の授 業運営方法を身につける。 講師:ダイナミックヒューマンキャピタル中村文子氏	本学	学生の学びの促進に 興味のある方 先着30名	無料	9:30～ 17:00	本学 豊洲キャンパス	教育 イノベーション 推進センター 事務課
			授業外学習を促す シラバスの書き方WS	目的:学生が授業外で自ら学習を進め、結 果として単位制を充実化させるツールと してシラバスは重要な役割を果たす。本WS では授業外学習を促すいくつかの事例を 紹介しながら、シラバスの基本的な構造 や特徴について学び、自身のシラバスを 作成するための基本を身につける。	本学	学生の学びの促進に 興味のある方 先着20名	無料	2時間	本学 豊洲キャンパス	教育 イノベーション 推進センター 事務課
			授業デザインWS	学生の学習を促すための基本的な授業 デザインの方法を身につける。「授業外 学習を促すシラバスの書き方」WSに引 き続き受講すると、到達目標設定からの 流れがスムーズに理解できる。	本学	学生の学びの促進に 興味のある方 先着20名	無料	4時間	本学 豊洲キャンパス	教育 イノベーション 推進センター 事務課

